

出雲市大社町

稲佐川周辺の災害対策強化を

大田県議、後藤市議ら調査

日本共産党の大田陽介県議は3日、8月23日の強雨で避難勧告が発令された出雲市大社町杵築



北の稲佐川を調査しました。党大社支部、後藤由美市議、吉井安見・民青同盟県委員長が同行しました。(写真)

稲佐川周辺は土石流の警戒区域に指定されている地域で、1997年に水害が発生しています。住民の方からは「今回も上流から大量の土砂が流れてきました。大事には至りませんが、不安でいっぱいです」との声が寄せられました。大田県議は「住民の安

心・安全のために十分な対策が講じられるよう関

しまね地域・自治 夏の学校

党地方議員ら参加し学習・交流

「しまね地域・自治 夏の学校」(しまね地域自治研究所主催)が8月17、18の両日、出雲市内で開催されました。

雲南市の大谷吾郎市幹が「雲南市のまちづくりと『地域自主組織』と題し、記念講演しました。大谷氏は「主役である市民がまちづくりを主体的に関わることを条例に掲げている。それぞれの自主組織には担当職員が

係機関に要求していきたい」と語りました。

配置され、行政と自主組織は対等の関係にある」と話し、地域課題を自主的に解決する様々な実践例を紹介しました。分科会では「国民健康保険の一元化と保険料負担」について、日本共産党の尾村利成県議が報告しました。尾村県議は「国保は公的医療保険で、社会保障の一環である以上、保険者は加入者が払える保険

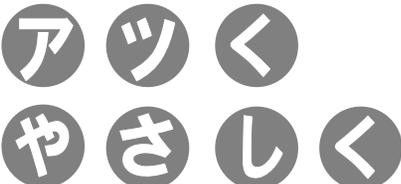
中国地方各地でも共闘が深化

この夏、話題となった映画を観ました。「慰安婦」問題に焦点をあてたドキュメンタリー映画『主戦場』、権力に対峙



前衆議院議員 大平よしのぶ

大平よしのぶ



するメディアのあり方を問いかける『新聞記者』、原爆投下直後の広島を描いた『ひろしま』(1953年につくられた作品だが「反米的だ」と上映が拒否され、半世紀を経て再び光があてられた)：どれも胸にせまる力作でした。一つひとつの中身もさることながら、特に安倍政権の下で各地で「表現の自由」に対する攻撃が激しくなっている中、信念を貫き上映へとこぎつけた制作スタッフや俳優陣、上映を普及する方々など関係者の皆さんの気概にもたいへん心を打たれました。さらにこの夏の映画でもう一つ紹介したい

のが、若者たちを中心に絶大な人気の漫画『ワンピース』。3年ぶりの新作が公開されました。自己顕示欲を満たすために計画された、世界をおびやかす悪行に対し、これまで敵対していた勢力とも「今度ばかりは…」と力をあわせ、「共闘」(実際に作者自身がこの言葉を使っています)して立ち向かい敵を倒すというお話。時代を感じずにはおられない、といえればちよつと考えすぎでしょうか。参議院選挙を前後して、中国地方の各地でも共闘が深化しています。中国地方では参院選後最初の地方選挙となった島根県の益田市議選。新人の岡崎ひさしさん

で4年前には県議選で党の候補者とたたかいた松本正人さんが「市民目線の岡崎さんを、党派を超えて押し上げよう」と熱いあいさつをしてくださいました。広島県北広島町でも、米軍機の低空飛行訓練がますます激化する中、今年の6月議会でも「日米地位協定の抜本的見直しを求める意見書」が全会一致で採択されました。私も大いに新しい場所へどんどん飛び込み、新しい友人をさらに広げたい。ちなみに上記『ワンピース』の今回のテーマはズバリ「立ち上がれ、全勢力」。私たちへのエールだと受けとめ、勝手に盛り上がり、燃えています。(9月1日付)

地域の話題

安田農政の転換を 上代議員が質問

上代議員「日米FTAなど輸入自由化一辺倒の安倍農政は日本の農業、中山間地農業に多大な影響を及ぼすと考えるが、市長の見解は。この農政を転換する以外、農業や地域を守る道はないのではないか。速水市長(日米FTAなど)こういった世界的な大きな流れは、中山間地域の農業に大きな影響を与

料にするために、あらゆる努力をすべき」と指摘し、「保険証取り上げや強

権的な差し押さえなどの制裁行政は許されない」と強調しました。

えるものと思っている。中山間地域の農業、小農がしつかりと維持、拡大されるような農政をぜひとも国において展開していただきたい。市長会などを通じて強く訴えたい。その他、上代議員は「市単独の土地改良事業の補助の拡充を」や「イノシシ防除目的のガルバリウム鋼板も補助対象に」などの質問もしました。(「上代かずみの議会報告」より)

種子法復活求める 請願が採択

「種子法の復活と県条例制定の意見書提出を求める」請願(おくいずも農民連提出)が賛成多数で採択されました。種子法は、世界に誇るべき法律でしたが、昨年廃止されました。同法は、県とJAで県独自の優良銘柄を開発し、農家の生産・販売に多大な貢献をしてきました。種子法の復活を求める動きは全国に広がり、島根県も条例制定について検討するとしています。(「奥出雲町民報」より)

高すぎる国保料 引き下げを

大田市国民健康保険事業特別会計本算定予算では、1人当たり保険料は、

アタタタ

原発ゼロをめざす島根の会 総会&学習会

9月21日(土) 13時30分~県民会館 308 会議室

- 13時30分~ 島根原発をめぐる情勢学習会 (講師：尾村利成県議)
- 14時40分~ 第6回総会
- 15時30分 終了予定

医療分は当初予算より2千円下がりが6万1千円、介護分は1千円下がりが2万3千円、高齢者支援分は7百円下がりが1万8千3百円となっています。これは前年度と同額です。今年度の国保事業基金の取り崩しは9千4百円余で、これは医療費が減ると見込まれたためです。しかし、加入者の厳しい暮らしの実態を考えると、せめて前年度と同程度程度の1億2千2百万円余を取り崩し、保険料を引き下げるべきです。共産党のみの反対で、昨年と同じ保険料になりました。(「亀谷優子の議会報告」より)

放課後児童クラブ 料金値上げ条例案

9月議会に市長が提案する条例案には、放課後児

童クラブの料金に関わるものがあります。しかし、その内容は少子化対策・子育て支援の重要性が高まっている情勢に逆行し、市民に負担増を強いるものとなっています。現行では月額5000円となっており、2020年度は月額6000円に、22年度以降は月額7000円にするというものです。また、現行では負担が設定されていない土曜日や夏休みの利用について、土曜日は一回400円、夏休みは年5000円の負担とされています。さらに、兄弟が同時に利用した場合、2人目以降は全額免除となっているところを、2人目は半額、3人目以降を免除とサービスを後退させています。(「こづつ民報」より)